

# 薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2021年  
8月13日  
第120号

## カワミドリ（シソ科）

第三圃場で高さ70 cmほどの茎に淡紫色の小花を付け群生している姿が見られます。日本各地やアジア東部の山地、草地に見られる多年草です。ハッカに近い植物なので、全草に強い芳香があり、葉を揉むとハッカの爽やかな香りが漂います。カワミドリの中国語での植物名が藿香 (huòxiāng) で、日本語ではカッコウと読みますが、本来の生薬カッコウ（藿香、中国語での生薬名は广藿香）は、同じシソ科のパツヨリ（中国語での植物名も广藿香）の地上部を原料とし、清熱、解表、芳香化湿、化痰止嘔を目的に、藿香正氣散などの漢方薬に配合されています。中国東北部では、カワミドリの地上部が生薬カッコウの代用として用いられていたそうです。カワミドリ（中国語での別名が土藿香で、香料業界ではこの名で香草として使っています）は精油の成分としてメチルカビコールなどを含み、高級な線香の原料でもあります。

## オケラ（キク科）

第一圃場で花の蕾が付き始めました。9月頃にアザミに似た白花が見られます。オケラの新芽はトトキ（ツリガネニンジンの新芽）と共に日本の野草で最も美味しいと言われる多年草です。根茎が生薬ビャクジュツ（白朮）の原料となり、補氣健脾を目的に五苓散、六君子湯などに配合されます。京都八坂神社では大晦日夜に白朮を焚き、煙を浴びたり、屠蘇散に配合したりして、新年の無病息災を願う習慣があります。オケラの中国語名は关苍术 (guāncāngzhú)、その根茎を原料とする生薬も关苍术（日本漢字で関蒼朮）といい、その生薬はソウジュツの一種として扱われます（中国での白朮の基原はオオバナオケラの根茎）。中国でも苍朮と白朮は使い分けられていますが、日本の白朮は中国では蒼朮ですから、日本での蒼朮と白朮の使い分けは意味がないかもしれません。